

ドレッセ二子新地

Drese Futako-shinchi

No. 20-024-2015作成
新築
集合住宅

発注者	東京急行電鉄株式会社、三井不動産レジデンシャル株式会社、株式会社長谷工コーポレーション	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社長谷工コーポレーション		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
	HASEKO Corporation		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	
施工	株式会社長谷工コーポレーション					

緑豊かな風景の伝承と生き物の訪れる環境づくり

計画地の二子新地駅周辺は再開発の進む二子玉川駅から多摩川を隔ててわずか600m、1駅1分ではあるが、開発が立ち遅れ、のどかな風景が広がっていた。計画地はパン工場として地域に親しまれていた場所で、敷地内には20mを超えるケヤキが生い茂っており、元々住みついていた生物に加え、多摩川付近から飛来しているであろう昆虫類、鳥類も見受けられた。計画初期段階において認可保育園や地域防災拠点となる公開空地の整備などの取り組みにより、川崎市から住宅地においては珍しい高さ規制の緩和(高度突破)を許可された。建物を高くする分、地域の方々との交流の場となる緑豊かなオープンスペースや防災拠点機能を備えたまとまった広場を生み出し地域に貢献し愛される街となることを目指した。この地を訪れて最初に印象に残ったのは、見上げた際にケヤキの樹冠で空が見えないほどの風景だった。その時のイメージを再現するため、地域に公開した広場を「天蓋の森」と名付けて見上げた空の風景の伝承を行った。また土地の記憶として、伐採したケヤキの幹はベンチ、スツール、テーブルに加工して再利用した。中庭を中心に生き物が訪れやすい環境づくりと、居住者に生き物や植物に愛着をもってもらえる仕掛けづくりも施した。



セントラルガーデンと天蓋の森は屋上緑化でつながっている



メインエントランスまでの緑豊かなアプローチ



大ケヤキの風景を再現した「天蓋の森」



豊かな緑を再現した「四季彩の路」



外周には緑豊かな歩道を整備



入口もケヤキにより風景を伝承



「セントラルガーデン」
雨水再利用の水場



「さえずりの路」
奥に既存のヒマラヤスギ



既存大ケヤキをベンチ・スツールに再利用
(既存～切断～搬出～乾燥・加工)



防災拠点となるまとまった広場の
「コミュニティパーク」



テント設置可能な
パーゴラ
かまどベンチ

従前・従後の取り組み

～生物調査・追跡調査・居住者向けイベント～

専門のコンサルタントにより従前の生物調査を実施し、工事によって離れた生物たちが戻ってきやすい配慮を中庭を中心に施した。分譲集合住宅では、引き渡した後の管理を居住者と管理会社に委ねることになるが、生物との共存がスムーズに継続してもらえるよう、入居後もコンサルタントによる追跡調査、管理指導、イベント開催など引き続き実施している。特に最初の1年間は今後を左右する重要な期間であるため緑地管理業者への選択的な除草方法や樹木の剪定のタイミングのアドバイスを行っている。また、居住者向けに四季折々の動植物の変化を伝える「生き物ニュースレター」を発刊したり、中庭での関連イベントを開催するなど生き物に愛着を持ってもらえるよう努めている。地域から愛され、住まい手にとっては住むほどに愛着の持てる住環境を持続できることを見守っている。

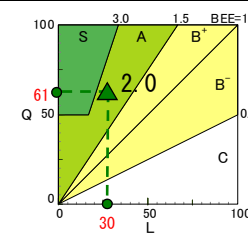
設計担当者

統括：小島俊司/建築：岩館公治/ランドスケープ：長野順一/共用デザイン：毛利俊彦/構造：岩崎昭雄/設備：庄司周作、芳賀淳
生物調査・アドバイザー：株式会社エコル



建物データ	
所在地	神奈川県川崎市
竣工年	2015年
敷地面積	16,828㎡
延床面積	37,408㎡
構造	RC造
階数	地上15階建2棟、地上10階建1棟、地上1階建1棟

CASBEE評価	
Aランク	
BEE=2.0	
2011年度版自治体提出	
A棟	
(BEE B棟1.9 / C+D棟2.0)	



- 主要な採用技術 (CASBEE準拠)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (高い緑化率、従前従後の生物調査、生物の生息域の確保)
 - Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (周辺環境への調和、街並みの形成、風景の継承)
 - Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (地域へ開放した防災広場や認可保育施設を計画)